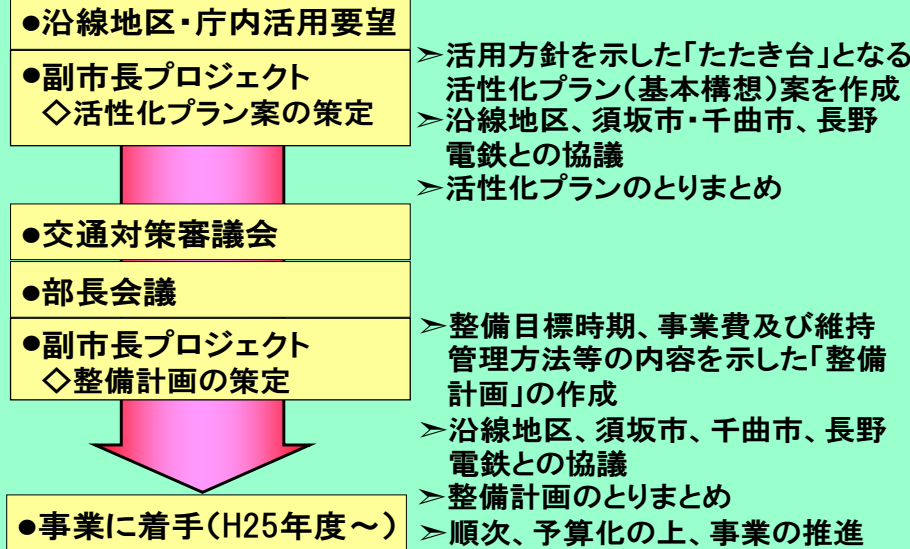


1 策定の目的

- 平成23年10月に長野電鉄(株)から、旧屋代線跡地を地域発展に役立ててほしいとの意向で、「一括無償譲渡」の申出あり。
- この申出に対し、市では、跡地の活用方針が決定したもものから無償譲渡を受けることを表明
- 旧屋代線は、沿線地区の中心部を通過している箇所も多く、跡地が長期間放置されることは望ましいことではない。
- 地域の活性化につなげるため、沿線地区や市内、須坂市・千曲市・長野電鉄(株)との調整・協議を重ね、本プランとしてとりまとめたもの

2 活用事業の実施に向けて



3 一括無償譲渡の市内対象資産

- ・線路 16.3km (全体 24.4km)
- ・駅舎数 8駅 (全体 12駅)
- ・鉄道用地面積 約179千㎡(全体 約256千㎡)

【鉄道用地の内訳】

- ①線路敷 約111千㎡
- ②駅舎用地 約58千㎡
- ③変電所敷地 約3.8千㎡
- ④その他(トンネル3箇所、駐車場等)

4 活用に当たって前提となる考え方

【長野電鉄の実施事項】

- 不要な鉄道施設及び付帯施設の撤去
- 地上権、抵当権、賃借権等の権利の消滅及び所有地境界に係る全ての問題の解消
- 土壌汚染対策
 - ・特定有害物質等の処理
 - ・変電所跡地は、PCB含有設備があるため、その処理を終えるまで長野電鉄が管理

【長野市】

- ・譲渡までの固定資産税は、法令に従って賦課し、特段の例外措置はとらず課税の公平性を確保

6 整備計画の進め方・将来的な活用策

整備計画の進め方

- 今後、整備目標時期、維持管理方法、概算事業費等を示す整備計画をとりまとめ
 - 跡地活用は、地域活性化を目的としていることから、沿線地区と行政との協働により進めていくため、施設の活用方法や維持管理方法を地区と協議

将来的な活用策

- 本プランで掲げた活用方法や、地区要望で提案された将来的な活用方法については、整備後の活用事業の検証を行いながら、継続して検討

5 ゾーン別活用方針



【線路敷地】

- 自転車道、遊歩道として整備
- 綿内、信濃川田、金井山、松代を休憩所として利用
- 踏切道は、道路として使用(道路管理者が管理)

【綿内駅周辺】

- 駅舎
 - 自転車道・遊歩道の休憩所、バスの待合所
 - 耐震診断の上、必要な改修工事
 - トイレはユニットトイレに改修し、水洗化
- 駅構内・周辺
 - バスロータリーの整備
 - パークアンドバスライド用駐車場の整備
 - 駐輪場は代替バス利用者のために活用
 - その他の用地は多目的広場として整備

【信濃川田駅周辺】

- 駅舎
 - 自転車道・遊歩道の休憩所、バスの待合所
 - 耐震診断の上、必要な改修工事
 - トイレはユニットトイレに改修し、水洗化
- 駅構内・周辺
 - トレインメモリアルパークとして、鉄道車両2000系を配置
 - パークアンドバスライド用駐車場の整備
 - 駐輪場は代替バス利用者のために活用
 - その他の用地は多目的広場として整備

【若穂駅、大室駅、象山口駅、岩野駅】

- 駅舎(ホーム・トイレ含む)を撤去
- 既存駐輪施設の無い場所へは、駐輪設備を整備

【金井山駅周辺】

- 駅舎・ホームは撤去
- トイレはユニットトイレに改修し水洗化
- 駅前駐車場は一部パークアンドバスライド用駐車場として活用
- 駐輪場は代替バス利用者のために活用

【松代駅周辺】

- 駅舎は、自転車道・遊歩道の休憩所・バスの待合所
- 歴史的風致維持向上計画の重点区域を定め、松代城跡等のランドデザインを描き、地区と協議しながら事業を実施する。
- 長野市都市計画マスタープランに掲げた整備方針と、今後松代地区で策定する松代地域振興計画との関わりが大きいので、地区と協働して推進を図る。